



としよしつだより



宝塚市立ひらい人権文化センター

令和6年（2024年）6月発行

2024年の課題図書がはいりました

小学校低学年向け(1・2年生)

【アザラシのアニュー】 あずみ 虫

さむい冬のある日。地球の北のほうにある海の氷の上で、タテゴトアザラシのあかちゃんがうまれました。おかあさんはあかちゃんにアニューとなまえをつけました。アニューはおかあさんのおちちをのんですくすくそだちます。ある日、おかあさんがうみにでかけると・・・。

【ごめんねでてこい】 ささき みお

大好きなおばあちゃんと、少しの間いっしょに暮らすことになったはなちゃん。優しいおばあちゃんと過ごす時間はとても楽しかったけれど、いつもと違う生活にだんだんもやもやがたまってきて・・・。「おばあちゃんなんて、きらい！」と言ってしまったはなちゃんは、「ごめんね」が言えるでしょうか。

【おちびさんじゃないよ】 マヤ・マイヤーズ

テンちゃんは身体の小さな女の子。周りのみんなが子ども扱いするけど、いろんなことができるし、知っているのです。ある日、学校にマルくんという身体の小さな男の子が転校してきました。小さなマルくんにいじめっ子が近づきます。どうしよう・・・小さなテンちゃんはマルくんを助けようと・・・。

【どうやってできるの？チョコレート】 田村 孝介

原料のカカオから板チョコレートができるまでを、豊富な写真としかけ画面を使いながら、順を追ってみていきます。原料が変化して食べ物になるふしぎ、そして社会の仕事にも目が向く絵本です。

小学校中学年向け(3・4年生)

【いつかの約束1945】 山本 悦子

「あたしは、関根すず。9さい！」ゆきなとみくは、自分は9歳だと言うおばあさんに出会い、共に一日町を歩き回ることに。後日、二人は意外な場所で彼女と再会する。残されたメッセージに込められた思いとは？いっしょに町を歩きまわり、語り合った、忘れられない夏の日。

【じゅげむの夏】 最上 一平

四年生の夏休みにやりたいことを宣言した、筋ジストロフィーの親友、かっちゃん。かっちゃんのねがいをかなえてあげたくて、ぼくらは綿密に計画をねったのだけれど・・・。夏のおいが濃く立ちこめる山あいの村でいのちを謳歌する少年たちのすがたをみずみずしく描く。

【さようなら プラスチック・ストロー】 ディー・ロミート

約5千年前に発明されたストローは、なぜ今、問題になっているのだろうか？ストローの発明と改良の歴史、使い捨てプラスチックが環境や海の生き物に与える影響、解決策など、SDGsを考え行動するためのノンフィクション。できることから始めてみましょう！

【聞いて聞いて！音と耳のはなし】 高津 修／遠藤 義人

音のプロがかたる、音のひみつと耳のはたらき。

小学校高学年向け(5・6年生)

【ぼくはうそをついた】 西村 すぐり

祖父から原爆でなくなった大おじの話聞き、リョウタはあらためて自分の住むヒロシマの街を歩き、原爆の傷と人々の想いについて考えはじめる。いっぽうレイは原爆で息子を亡くしている曾祖母を救いたいと思っていた。男の子に思われたいと、どんどん髪を短くしていくがー。すべての人が幸せに生きられる世界へ、祈りをこめた物語。

【ドアのむこうの国へのパスポート】 トンケ・ドラフト／リンデルト・クロムハウト

作家の家には、なぞめいたドアがある。ドアのむこうには、特別なパスポートを持った人しか入れないという。クラスの子もたちは作家と手紙をかわしながら、パスポートやビザの申請といった課題にむきあううちに、仲間や自分をより深く知っていく。オランダの人気児童文学作家二人による、子どもたちへのエールに満ちた物語。

【図書館がくれた宝物】 ケイト・アルバス

1940年、第二次世界大戦下のロンドン。12歳のウィリアム11歳のエドモンド、9歳のアンナのきょうだいは、親がわりだったおばあちゃんが亡くなり、3人で学童疎開に参加することに。疎開先の厳しい日々、3人にとって、村の図書館だけが救いだったー。本の好きな3にんきょうだいの、心あたたまる物語。

【海よ光れ！3・11被災者を励ました学校新聞】 田沢 五月

東日本大震災の避難所となった小学校で、被災者といっしょに寝泊まりしていた子どもたち。何を感じ、そして自分たちに何ができるのかを考え取り組んだこととは……。感動のノンフィクション。

中学校

【ノクツドウライオウ 靴之往来堂】 佐藤 まどか

突然、家業の5代目店主候補だった兄が消えた。シューズデザイナーを夢見ていた夏希は、靴職人として100年続く老舗靴店を継ぐべきか、悩める日々――。そこに、クラスのイヤミ男、佐野宗太がひょんなことから急接近！さて、夏希の運命は……？

【希望のひとしずく】 キース・カラプレーゼ

この町で、ふしぎなことが起きている。古い井戸がいきなり、願いをかなえてくれるようになった。理由を知っているのは、三人の中学生だけ。アーネスト、ライアン、リジーは、世界をよくする方法なんか知らない。だけど、世界のかたすみで、みんなに希望をあげることはできる。一度にひとつの願をかなえることで……。

【アフリカで、バッグの会社ははじめました】 江口 絵理

人の命を救う仕事をしたいと願いながら、夢をあきらめたり、思いがかなわなかったり。それでも、いつだって彼女は前を向き、歩きつづけました。アフリカ・ウガンダでバッグ工房を立ち上げて、バッグづくりを通してアフリカ女性を支援する社会起業家・仲本千津さんの、これまでの迷い多き道をたどる“進路決定”ドキュメンタリー。

以上、15冊の課題図書がはいりました。

図書室からのお知らせ

- 夏休み期間中(7月20日～8月28日)は日曜・祝日を除き、毎日午前9時15分から午後5時(午後0時15分から午後1時お昼休み)まで開いています。
- 課題図書の貸し出し期間はおひとり1冊で1週間です。
- 読みたい本が貸し出し中の場合は予約もできます。
- 貸し出しには登録が必要です。

宝塚市立ひらい人権文化センター ☎(0797)88-2795